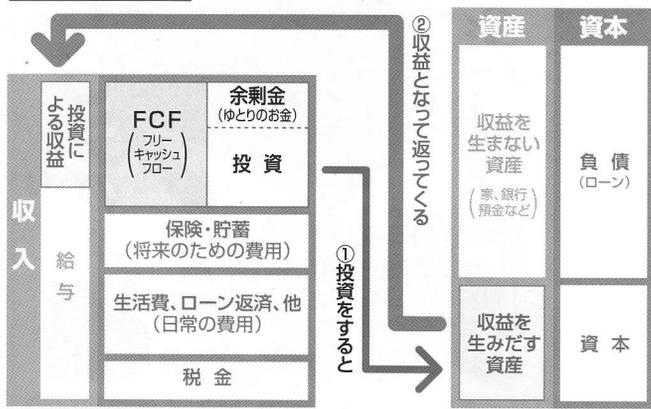


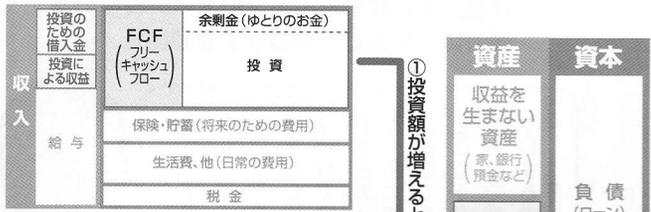


基本の考え方

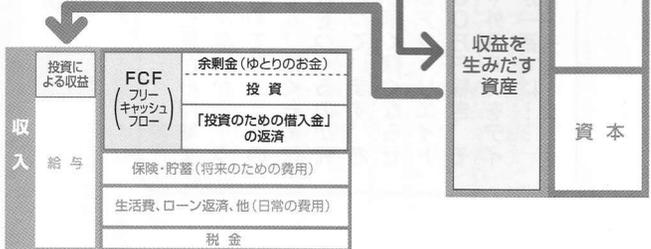


進化型

■借入した月

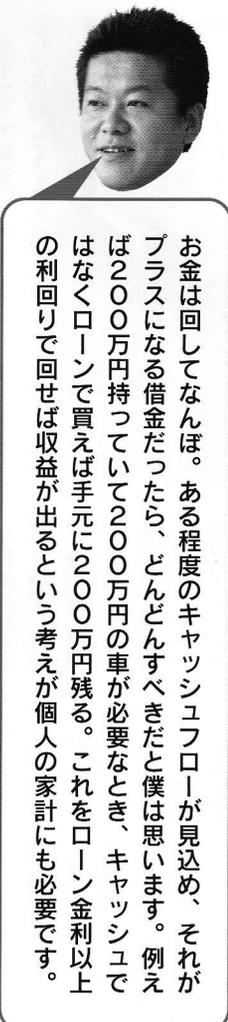


■借入返済期間



検証

キャッシュフローがプラスなら借金をしたほうがお得？



お金は回してなんぼ。ある程度のキャッシュフローが見込め、それがプラスになる借金だったら、どんなにすきだと思えます。例えば200万円持っていて200万円の車が必要なとき、キャッシュではなくローンで買えば手元に200万円残る。これをローン金利以上の利回りで回せば収益が出るという考えが個人の家計にも必要です。

キャッシュフローとはある期間内の現金の出入りのこと。これがプラスなら現金が増えていく。

「キャッシュフロー」とはある期間内の現金の出入りのこと。これがプラスなら現金が増えていく。このキャッシュフローの手法を個人の家計に当てはめたのが「基本の考え方」の左図だ（右図はバランシート）。1か月間の収入から税金、生活費など必要な経費を引いた残りが自由に使えるお金、フリーキャッシュフロー（FCF）となる。収入が少なくてもFCFがあればお金のゆとりがあるということ。つまり実際の豊かさには、収入の多寡よりFCFをいかに多くするかが大切なのだ。

鉄則

個人の家計も

キャッシュフローで考えろ

検証 山本憲明税理

72年生まれ。山本憲明税務事務所所長。大手メーカーの経理を務めた経験から、税務だけでなく企業の財務・経理にも豊富な知識を持つ。



「FCFが大きいとそれだけ投資に回せる金額が増え、結果収入が増大してFCFはますます大きくなります。『お金は回してなんぼ』とはそういう意味です。もしここで、FCFを車など収益を生まない資産に使うと、この拡大サイクルは生まれません」（山本氏）

もうひとつ重要なのは、金利が投資利回りを下回っていること。「ローンで買えるものには大体担保価値があるからその分金利が安い。特に車なんかメーカーの戦略でほとんどゼロ金利」（堀江氏）つまり車は現金があってもローンで買うのが得策なのだ。

もちろん収益に関係なく家や車が欲しい人もいるだろう。そんな人のためにあるのが、鉄則⑤の自動車ローンのテクニックだ。借金（ローン）をした月は手元に200万円が入るのでFCFは大幅増。その分投資が増えて収益を生み出す資産が拡大する。翌月以降はFCFの多くが借金返済にあてられるが、投資収益の増大からFCFはローン前より大きくなったままだ。

「負債が大きくても返済額がFCFの範囲内なら問題ありません。逆にいえばFCFがマイナスにならない範囲でなら、借金をしたほうがキャッシュフローが良くなります」（同）

キャッシュフロー計画に向いている低金利ローンなど一覧

低金利	利率	ポイント
自動車ローン	年利1.9%~	新車を購入する場合、本文中にも記してあるように、自動車メーカー各社が設けた低金利ローンがある。最低年利には三菱自動車など、年利1.9%~（期間限定）
奨学金	無利息貸与~	学生やその親は、奨学金をとり、学費分の現金は運用せよ、という理論になる。最低年利では「教育ローン『満点くん』」。日本育英会の奨学金は無利息貸与だ
無利息ローン	7日間無利息	高橋真唯のCMでもおなじみの「NO LOAN」は、1週間無利息で100万円まで借入可能。即日振込で完済後は「何度でも1週間無利息」。ただし1週間を過ぎると、年利22%以上
割り勘支払い	1か月無利息	割り勘の際、支払い役になりクレジットカードを使い続ける。これは1か月間、無利子でお金を借りたいのと同じこと。「財布に現金があると使っちゃう」ではダメ

こつこつと だっただんた」講座

基本